

1. 病棟の具体的な目標と評価

1) 専門職として看護ケアの質を保証する

- (1) 原理原則の徹底、院内ルール(看護手順等)の遵守 (2) 専門的知識を深め、実践力を深める
(3) 看護を可視化して後輩に伝える (4) 現場で直面する倫理的問題について話し合い、個々の倫理性を高める

ナーシングスキルを利用することで手順と根拠の再確認を行った。毎日のミニカンファレンスの場をもつことで情報や知識の共有だけでなく、指導方法や伝え方を考える場とすることができた。また、デスカンファレンスを6件実施し、現場で直面する倫理的問題を話し合うなかで、個々の倫理感性を高め、患者、家族にどう関わっていくかを共に考える姿勢を育むことに繋がった。

2) 病院運営、経営に参画する

- (1) 病院の目標、看護単位の目標を理解し、具体的対策を行動化する (2) 入退院支援看護師を育成し、平均在院日数、在宅復帰率の目標を維持する

平均在院患者数 23 名、看護必要度 21.6%(目標 10%以上)、平均在院日数 32.8 日、在宅復帰率 87.7%(目標 70%以上)と目標達成できた。平均開放病床利用率は 55.6%(目標 20%)であり、指導日数も維持できた。施設基準の遵守に努め、入院期間は 60 日以上にならないよう入院時から多職種と連携を図った。退院前カンファレンスや家屋調査の実施、入院支援フローチャートの活用により、入院時から退院を見据えスタッフ個々が早期から介入できるようになったことが在宅復帰率の維持に繋がったと考える。

3) 安全な医療、看護を提供する

- (1) 患者の視点に立った医療安全を推進する。事故防止のために各種マニュアルを遵守する
(2) 感染防止対策に基づいた看護実践を行う

インシデントレポートからの改善策として、薬ケースの改良、施設管理薬の保管方法の変更等に取り組んだ。また、KYT ミーティングを毎月実施し、月間目標を立案し病棟全体で取り組んだ。そのことにより、スタッフの意識や行動変容に繋がった。また、転倒事例を元に Shell 分析の勉強会を行い、分析方法の知識を深めることができた。感染対策については、手指消毒剤を個人持ちとすることによりスタッフの使用する意識が高まった。手指衛生の強化月間を設け、手指衛生の5つのタイミングの唱和や場面をみてタイミングを考えることなどを実施し、適切な手指衛生が遵守できるように働きかけ、実施することができたと考える。

4) 専門職として学び続ける

- (1) 教育プログラムを活用し看護師及びチームを育成する (2) 看護研究に取り組みその成果を活用する

経年別研修に全員が参加できた。院外研修へ参加したスタッフは、学んだ知識を勉強会や抄読会、資料等を用いてフィードバックすることができた。内視鏡介助者育成のための教材がなかったため DVD を作成し今後の教育に繋げていく。ユマニチュードについての看護研究に取り組み、日々の看護実践に取り入れることができた。認知症患者への看護をスタッフ全員が深めていくことができるように継続して取り組んでいく。

5)看護の先輩として学生指導に携わる

(1)将来共に働く仲間であることを認識し、「共有」の姿勢で学生指導を行う

CE 中心に指導を行い、実習開始時には朝のミーティングで実習目的をスタッフへ周知し、指導に対しての意識づけができた。そのことにより待つ姿勢や促しの声掛け、また多職種によるカンファレンスで学生が発言できる場作りなどに変化が見られるようになった。

6)活気ある職場を目指す

(1)明るい挨拶と報告、連絡、相談のできる職場環境を作る (2)ワークライフバランスを意識した業務改善を遂行する

挨拶に関して、病棟全体で取り組みスタッフ間だけではなく、患者、家族、面会者等に対しても挨拶ができています。また、報告、連絡、相談がしやすい雰囲気作りを心掛け、声をかけられた場合は忙しい時でも手をとめて聞くように変わってきた。またスタッフ全員が感謝の言葉を伝えることができ、お互いを気遣う職場風土が確立された。業務改善については、チーム内での声掛けを実施し、残務の確認を行いながら協力体制を整えることができた。しかし、時間外勤務の短縮には至っていないため今後も改善及び評価が必要である。

2. 病床運営状況

表1 令和元年度 病床運営状況

収用可能 病床数(床)	診療科名	月平均		平均在院患 者数(人)	平均在院 日数(日)	病床利用率 (%)
		新入院患者数(人)	退院患者数(人)			
30	内科・外科	21.6	21.3	23.1	32.79	76.9
有料個室		死亡者数(人)	包括ケア病床 在宅復帰率(%)			
病床数(床)	稼働率(%)					
8	77.9	16	87.7			

表2 令和元年度 外来診療状況

年間外来患者数(人)					検診件数(件)		予防雪舟実施件数 (件)		内視鏡 実施件 数(件)
内科	外科	皮膚科	眼科	リハビリ科	がん検診	検診	インフルエンザ	肺炎球菌	
8615	2573	568	910	1167	153	107	424	40	134

3. 看護体制

表3 令和元年度 看護体制

配置人数(人)	看護方式	夜勤体制(準:深)
22	固定チームナーシング	2:2

4. 看護統計

1)重症度、医療・看護必要度

表4 令和元年度 重症度、医療・看護必要度 I

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
基準を満たす患者の割合(%)	12.2	12	18.6	20.4	24.2	18.6	30.8	34.4	23.4	20.3	21.6	13.1	20.4

5. 研究業績

1) 看護研究発表・研究会発表

発表演題名	発表者	学会名	開催地	開催日
認知症ケア技法ユマニチュード導入前後の看護師の認識の変化	青野 倫弘	看護研究発表会	院内	2020年2月8日